

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									2.9
Q1 室内環境					0.40		-		2.9
1 音環境				2.6	0.15	2.6	1.00		2.6
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	3.0	0.40		
1.2 遮音				3.0	0.40	3.0	0.40		
1 開口部遮音性能				3.0	0.40	3.0	0.30		
2 界壁遮音性能				3.0	0.60	3.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	0.20		
1.3 吸音				1.0	0.20	1.0	0.20		
2 温熱環境				2.6	0.35	2.6	1.00		2.6
2.1 室温制御				3.0	0.50	3.0	0.50		
1 室温				3.0	0.38	3.0	0.57		
2 外皮性能				3.0	0.25	3.0	0.43		
3 ゾーン別制御性				3.0	0.38		-		
2.2 湿度制御				1.0	0.20	1.0	0.20		
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	0.30		
3 光・視環境				2.8	0.25	3.8	1.00		3.1
3.1 昼光利用				3.0	0.30	4.2	0.30		
1 昼光率		病室: 1.25% ≤ 昼光率		3.0	0.60	5.0	0.60		
2 方位別開口					-	3.0	-		
3 昼光利用設備				3.0	0.40	3.0	0.40		
3.2 グレア対策				2.0	0.30	4.0	0.30		
1 昼光制御		<病>カーテン・庇(バルコニー)を組み合わせている。		2.0	1.00	4.0	1.00		
3.3 照度		<共>照度55lx		4.0	0.15	1.0	0.15		
3.4 照明制御		<病>個室毎にベッド単位で細かな照明制御ができる。		3.0	0.25	5.0	0.25		
4 空気質環境				3.6	0.25	3.8	1.00		3.6
4.1 発生源対策				4.0	0.50	4.0	0.63		
1 化学汚染物質		建築材料は、告知対象外の建材及びJIS・JAS規格のF☆☆☆☆を採用。		4.0	1.00	4.0	1.00		
4.2 換気				2.0	0.30	3.6	0.38		
1 換気量		<病>建築基準法の1.4倍以上の換気量を確保。		3.0	0.50	5.0	0.33		
2 自然換気性能		<病>自然換気有効開口面積が居室床面積の1/10以上。		3.0	-	5.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮				1.0	0.50	1.0	0.33		
4.3 運用管理				5.0	0.20		-		
1 CO <sub>2</sub> の監視				3.0	-		-		
2 喫煙の制御		全館禁煙で屋外にも喫煙コーナーはない。		5.0	1.00		-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-		3.0
1 機能性				2.9	0.40	3.8	1.00		3.1
1.1 機能性・使いやすさ				4.0	0.40	5.0	0.60		
1 広さ・収納性		個室10㎡以上		3.0	-	5.0	1.00		
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	5.0	-		
3 バリアフリー計画		建築物移動等円滑化誘導基準を望ましいレベルで満たしている。		4.0	1.00		-		
1.2 心理性・快適性				1.0	0.30	2.0	0.40		
1 広さ感・景観				3.0	-	3.0	0.50		
2 リフレッシュスペース				3.0	-		-		
3 内装計画				1.0	1.00	1.0	0.50		
1.3 維持管理				3.5	0.30		-		
1 維持管理に配慮した設計		風除室の1次扉と2次扉の間隔が1m以上である。		4.0	0.50		-		
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50		-		
2 耐用性・信頼性				3.0	0.30		-		3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50		-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80		-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20		-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.2	0.30		-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20		-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.20		-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10		-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10		-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水VLP(B)、PEP(B)、排水VP(VP)、Eは不使用。		5.0	0.20		-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20		-		
2.4 信頼性				2.8	0.20		-		
1 空調・換気設備				3.0	0.20		-		
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20		-		
3 電気設備				3.0	0.20		-		
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20		-		
5 通信・情報設備				2.0	0.20		-		

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>2.9</b>	0.30	<b>2.9</b>	1.00	<b>2.9</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>2.8</b>	0.30	<b>2.8</b>	0.50	
1	階高のゆとり		2.0	0.60	2.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	<共>0.1≦壁長さ比率<0.3、<病>0.1≦壁長さ比率<0.3	4.0	0.40	4.0	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	0.40		-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20		-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20		-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10		-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10		-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20		-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20		-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.7</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>2.0</b>	0.30		-	<b>2.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.40		-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>3.0</b>	0.30		-	<b>3.0</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50		-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.4</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.8</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		BPI <sub>m</sub> =0.82	<b>4.8</b>	0.20		-	<b>4.8</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>		光庭の採用	<b>4.0</b>	0.10		-	<b>4.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		[BEI][BEIm]= 0.76、LED照明設備を導入している。	<b>3.8</b>	0.50		-	<b>3.8</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20		-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.0</b>	1.00		-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50		-	
集合住宅の評価			<b>3.0</b>	-		-	
4.1	モニタリング		3.0	-		-	
4.2	運用管理体制		3.0	-		-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.2</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.8</b>	0.20		-	<b>3.8</b>
1.1 節水		自動水栓などに加えて節水型便器などを採用。	<b>4.0</b>	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.7</b>	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無	雨水利用設備を設置し、雨水の利用が可能なように計画している。	4.0	0.70		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30		-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.0</b>	0.60		-	<b>3.0</b>
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		ソーラトン(天井)	3.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体+軽鉄+仕上材の詳細を採用し、OA707-も採用している。	4.0	0.20		-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.3</b>	0.20		-	<b>3.3</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用			<b>3.0</b>	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>3.5</b>	0.70		-	
1	消火剤		-	-		-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱等を採用。	4.0	0.50		-	
3	冷媒		3.0	0.50		-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.1</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		ライフサイクルCO2排出率81%	<b>3.7</b>	0.33		-	<b>3.7</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>2.5</b>	0.33		-	<b>2.5</b>
2.1 大気汚染防止			<b>3.0</b>	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善			<b>2.0</b>	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>3.2</b>	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25		-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
3	交通負荷抑制	駐輪場及び駐車場を確保し、管理用車両や荷捌き用車両も確保している。	4.0	0.25		-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.1</b>	0.33		-	<b>3.1</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40		-	
1	騒音		3.0	1.00		-	
2	振動		-	-		-	
3	悪臭		-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			<b>3.0</b>	0.40		-	
1	風害の抑制		3.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制		3.0	-		-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制			<b>3.7</b>	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告物照明を行っていない。	4.0	0.70		-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	